

都立立川短大 石毛フミ子

○岡田 陽子

1. 接着心の一種として M1 が出てきた。ワイシャツまたはシャツブラウスの心地として使用する場合、表布に接着するときのアイロンの温度，ならびに洗たくによる変化をしらべさらに糊付布との比較をおこなった。

2. 実験材料，表布はテトロン綿混紡ブロード，40Sブロードサンフォライズ加工布，テトロン麻混紡ローンの3種，心地は M1。

実験項目および方法 ①接着するときのアイロンの温度，温度は 150°C，160°C，180°C，接着時間は 2'，5'，10'，20'，30' の5段階。それらを洗たくし剝離の状態を観察。

②接着布の洗たくによる収縮，剛軟度の変化，洗たく回数10回，剛軟度は 45°カンチレバ法による。

③接着布と糊付布との固さの比較，糊付布は C.M.C. 0.2%，0.4%，0.6%，0.8%のものと比較。

3. 結果，①アイロンの適温度 160°C，接触時間は 5'。

②収縮率は10回後でいずれも 2%以下。剛軟度は洗たく回数の増加と共に減少の傾向，10回後は原布の50~70%程度。

③接着布と糊付布との固さの比較，洗たく10回後の固さは，C.M.C. 0.6%の糊付布とほぼ同程度。